

追悼の辞

本日、ここに「第六十六回長崎原爆被災者慰霊法要」が執り行われるにあたり、原爆犠牲者の御霊に謹んで哀悼の誠を捧げます。

1945年8月9日午前11時2分、長崎のまちは一発の原子爆弾により、一瞬にして壊滅しました。そして、約7万4千人の尊い市民の生命を無差別に奪いました。

今年で、原爆投下から77年を迎えます。私たち長崎市民は、原爆による悲惨な体験を世界の誰にも二度とさせないという思いで、「核兵器のない世界」の実現を訴え続けています。

しかし、この平和活動をけん引してきた被爆者の皆様は高齢化し、被爆者のいない時代が近づいていることを改めて感じています。

このような中で、原爆の犠牲となられた方々の苦しみを風化させることなく、後世に語り継いでいくことは、私たちの重要な使命です。

長崎市では、被爆の記憶の掘り起こしや語り継ぐ人材の育成に力を注ぐとともに、平和の新しい伝え方を探し出し、支援する取り組みをおこなっています。

世界では今般のロシアによるウクライナへの軍事的侵攻に際し、多くの市民の命が奪われ、核兵器の使用が示唆されるなど、今回の出来事を通して、あらためて「核兵器の脅威からのがれるためには核兵器を廃絶するしかない」との思いを強くしました。

世界恒久平和の実現のためには、これまで以上に私たち一人ひとりが力を合わせ、核兵器廃絶への声を大きくしていくことが重要です。皆様方におかれましても、核兵器廃絶や平和な世界の実現に向けて、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、株式会社タナチョー様におかれましては、原爆被災者に対する法要を長年にわたり挙行されてこられましたことに、長崎市民を代表して心から感謝申し上げますとともに、ご遺族並びに本日ご参列の皆様方のご健康とご多幸を祈念いたしまして、追悼の辞といたします。

令和四年七月九日

長崎市長 田上富久